



ハーマンインターナショナル株式会社

Automotive Speakers system Infinity ブランド紹介

Infinity(インフィニティ): 米国 カリフォルニア州

1968年、NASA 研究所出身の物理学者アーノルド・ヌデールが、ケアリー・クリスティ、ジョン・ユーリックと共に創設したスピーカーブランド。『∞』のシンボルマークもインフィニティの名も、それは物理学永遠のテーマであり、終わらないオーディオの夢に繋がるようにという思いが込められています。インフィニティのスピーカー設計コンセプトは、①可聴帯域を超える広帯域の周波数特性。②トランジェントの再現性。③サウンドステージの再現です。空間に広がる透明で繊細な高域、超微粒子のキメ細かい音の肌触りは、カラリと晴れたアメリカンサウンドのひとつのスタイルとして定着しています。

ブランド創設時より、静電型スピーカーやサーボ制御による低域のコントロールなど独創的な技術開発を続け、1970年代末にはダイナミック平面振動板型ユニット『EMI』を完成させます。Electro Magnetic Induction(エレクトロ・マグネティック・インダクション)と名づけられたこの新型ユニットは、静電型をそのままダイナミック型に置き換えたような新しい構造を持ち、これまでにない無いサウンドフィーリングが多くの音楽ファンを魅了しました。

1980年には『インフィニティ・リファレンス・スタンダード』の頭文字をモデルナンバーとするフラッグシップ機『IRS』が発売され、ブランドとして確固たる地位を獲得します。以降、KAPPA シリーズなど人気モデルを続々と発売し、『インフィニティのハイグレードモデルを所有する事が、オーディオファイルのステイタスシンボル』と称されるまで、ブランドは成長します。

開発・発売するプロダクトはホームオーディオの範疇にとどまらず、カーオーディオ市場にも積極的に進出。ホームオーディオと同じモデルナンバーであるKAPPAシリーズや、唯一無二の存在感を放ったツイーターユニット『EMIT』などを次々と市場に投入し、揺るぎないブランドポジションを確立しました。1977年にベースモデルが開発され、以降発展を遂げた IMG(Injection Mold Graphite) コーン紙や、C.M.M.D.(Ceramic Metal Matrix Diaphragms) は、Infinity 独自のホームオーディオ / カーオーディオ共通テクノロジーとして多数のモデルに採用され、より一層のプロダクトバリュー向上に貢献。その技術は現在のモデルにもしっかりと受け継がれています。



Infinity IRS

¥12,000,000(1システム 1980年)

技術解説

現在のモデルには採用されていない技術もありますが、Infinity ブランドの礎を成すものです。

IMG コーン紙

新素材ポリプロピレン・コーンを採用したスピーカーユニットを 1977 年に開発。10 年後の 1987 年、この技術をベースにポリプロピレンの特徴を活かしつつ、より一層の総合性能向上を図り登場したコーン紙が IMG (Ingection Mold Graphite) コーン紙です。特徴は、①グラファイト・ファイバーを使用してポリプロピレンのダンピング特性を踏襲強化。②コーン紙曲線形状の最適化により適度な内部損失と高剛性を実現。というものでした。

さらに改良を重ね、温度や湿度への耐性を向上させた IMG コーン紙は、カーオーディオ用のスピーカーユニットに採用され、市場から高い評価を得ました。

C.M.M.D.

Ceramic Metal Matrix Diaphragms の頭文字を取り命名されました。ベース素材であるアルミニウムを酸化させて『アルミナ』へと加工。2 枚のアルミナの間にはアルミニウムを挟み込んだ三層構造ダイヤフラムです。アルミナは酸素も炭素も含まず、セラミックと同類に属します。高剛性 & 超軽量なこのハイブリット素材のコーン紙は、紙よりほんの僅かに重い比重で 5 倍の強度を確保しています。C.M.M.D. コーン紙を採用したスピーカーユニットは分割共振がほとんど発生せず、クリアで低歪みな音質・音像を実現しました。ホーム・カー両プロダクトにて多数のモデルで採用されたコーン紙です。余談ですが、人工宝石のサファイヤやルビーなどは、実はこのアルミナに加工・着色を施すことで製造されています。

Plus-One テクノロジー

より大きなコーン紙表面積を確保するための技術です。このテクノロジーを採用したスピーカーユニットは、従来品の同サイズユニットより 30% 大きな振動板の表面積を獲得できます。出力音圧レベルの向上や低音域の充実については、恐らく万人が聴き分けられるほどの明らかな違いを体感できます。

ハーマンインターナショナル 株式会社

〒110-0006 東京都台東区秋葉原 1-1 秋葉原ビジネスセンター8F

050-5561-1560

<http://www.harman-japan.co.jp>